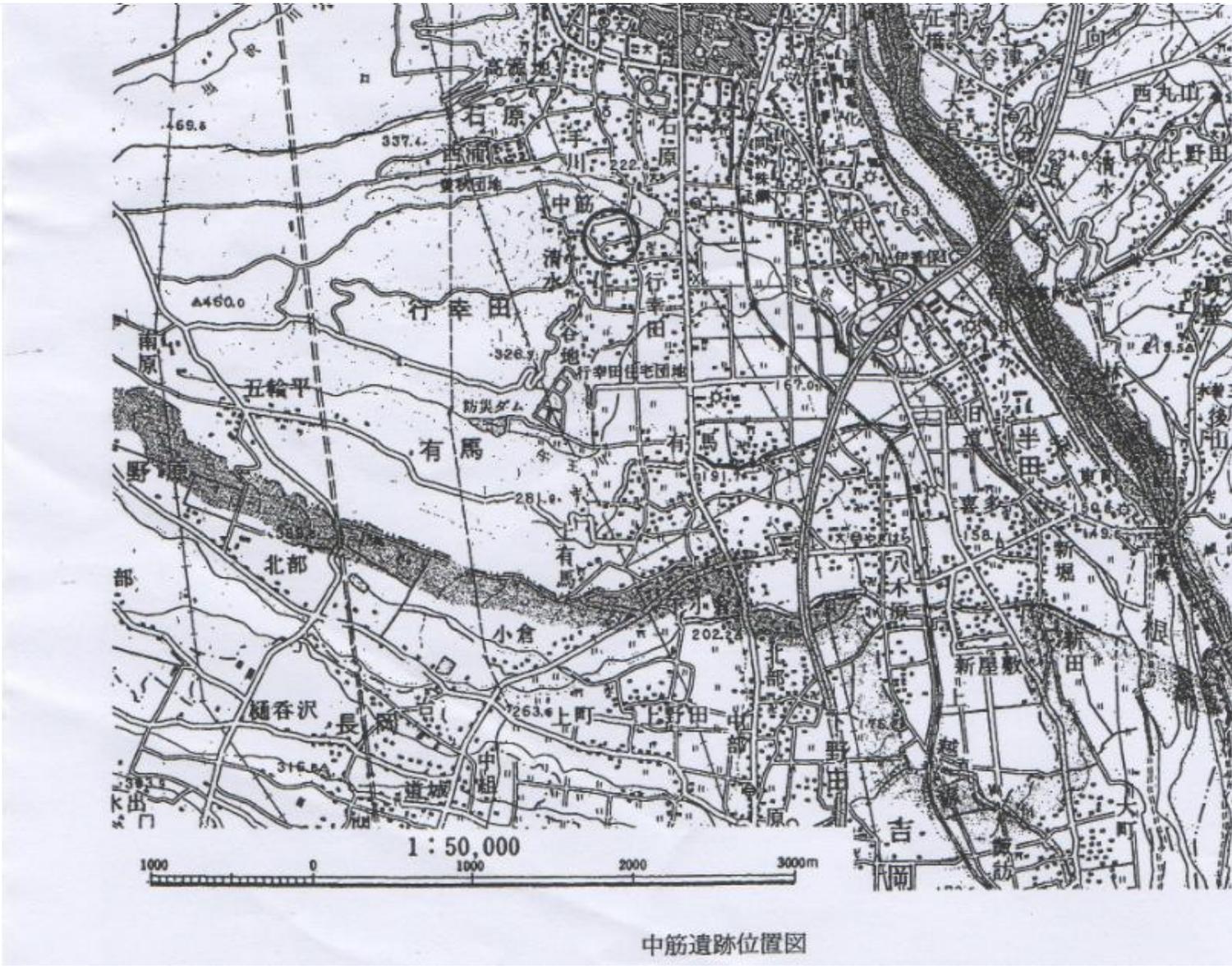


中筋遺跡(渋川市)

なかすじいせき

榛名ニツ岳の6世紀初頭の大噴火による火山灰により埋没していた古墳時代の住居跡(○印)





ここが中筋遺跡/群馬県指定史跡



この奥が遺跡になっている



ここから入って行く/右手前に説明板が立っている



よみがえった古墳時代のムラ



今から1500年前の秋、標名山が大
噴火して、流れ下った火山灰が一
帯にむき土をまいておこした。

県指定史跡

なかすじ

中筋遺跡

群馬県教育委員会
渋川市教育委員会

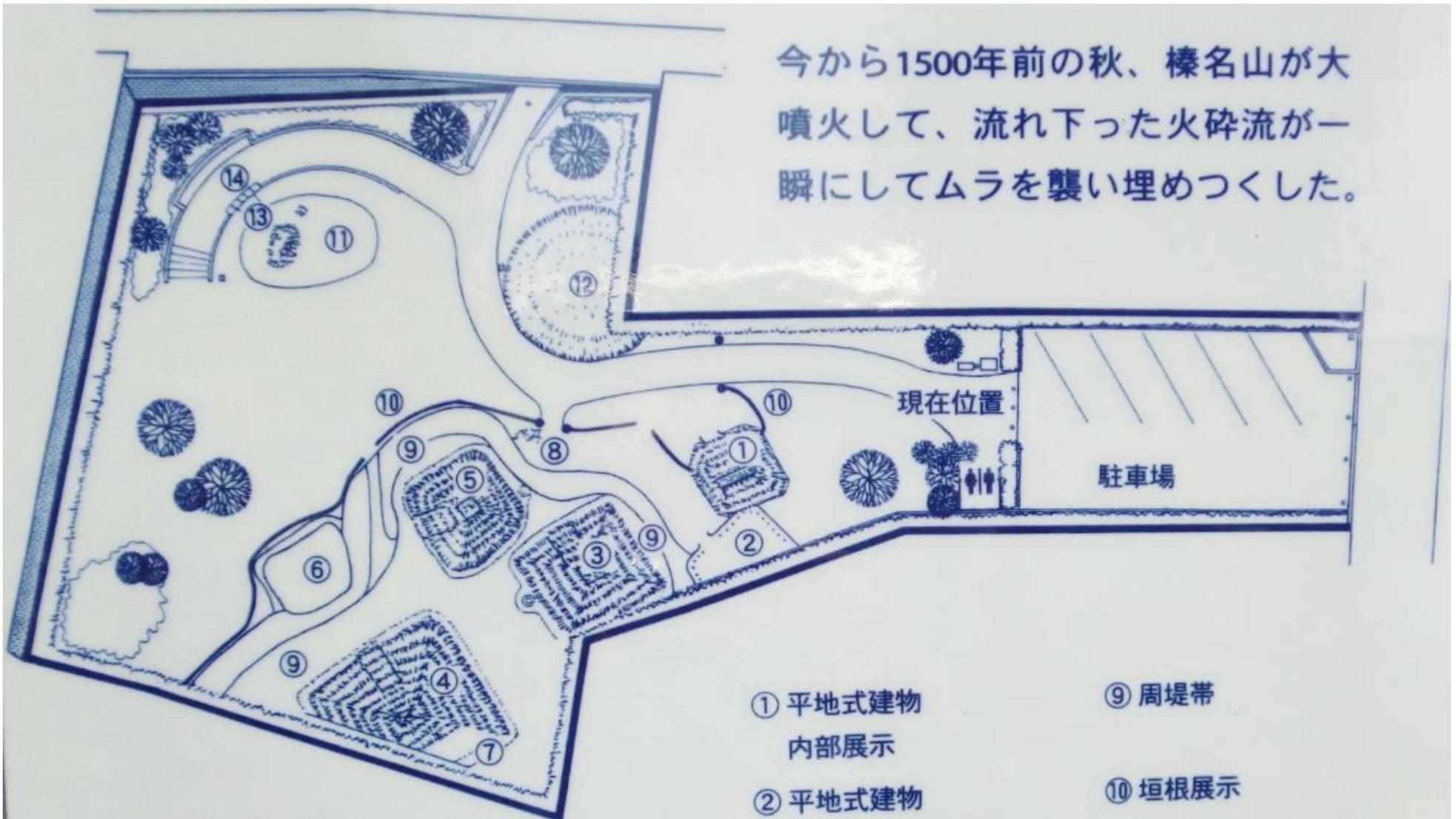
- | | |
|----------------------|-----------|
| ① 平地式遺物
水田遺跡 | ⑤ 溝遺物 |
| ② 平地式遺物
墓のつくり方遺跡 | ⑥ 溝遺物 |
| ③ 一歩掘り式住居
④ 石舟内遺物 | ⑦ 大きな鉄製遺物 |
| ⑧ 掘り式住居の遺物 | ⑨ 古墳 |
| ⑩ 墓跡 | ⑪ 大山の鉄製遺物 |
| ⑫ 墓跡 | ⑬ 墓跡 |

⑭の場所に中筋遺跡の説明が
あり、史跡の全景を見渡すこと
ができます。

①③復元住居は、中に入れます。

渋川市教育委員会 文化財保護課

今から1500年前の秋、榛名山が大噴火して、流れ下った火砕流が一瞬にしてムラを襲い埋めつくした。



- ① 平地式建物/内部展示
- ② 平地式建物/壁のつくり方展示
- ③～⑤ 竪穴式住居/③のみ内部展示
- ⑥ 竪穴式住居の廃屋

- ⑦ 屋根断面展示
- ⑧ 小さな祭祀場展示
- ⑨ 周堤帯
- ⑩ 垣根表示

- ⑪ 大きな祭祀場展示
- ⑫ 古墳
- ⑬ 火山灰断面剥ぎ取り展示
- ⑭ 説明板

この説明板に沿って順番に見て行こう/復元された住居等が見える



①、③～⑤の住居を見たところ/手前が⑩垣根表示/その後方は左手から①平地式建物/内部展示、③竪穴式住居/内部展示、⑤竪穴式住居、④竪穴式住居と並んでいる



まず、これが①平地式建物/内部展示



中に入ってみよう



これが平地式建物の内部の様子





アップで見たところ





この建地が立っているところが②平地式建物/壁のつくり方展示の場所



反対側から見たところ/どうも展示物が撤去されてしまっているようだ



次は③竪穴式住居/内部展示



中に入ってみよう



竖穴式なので下へ潜る



これが竪穴式建物の内部の様子











左手は④竪穴式住居



時計回りに廻ってみる





これは⑦屋根断面展示





反対側から見たところ



手前は⑩垣根表示



正面が㊦竪穴式住居



左手が右手から見た⑤竪穴式住居



この窪みは㊦竪穴式住居の廃屋の跡



別の角度から見たところ



アップで見たところ



さて、これは⑧小さな祭祀場展示



この石が置いてある場所がそのエリア

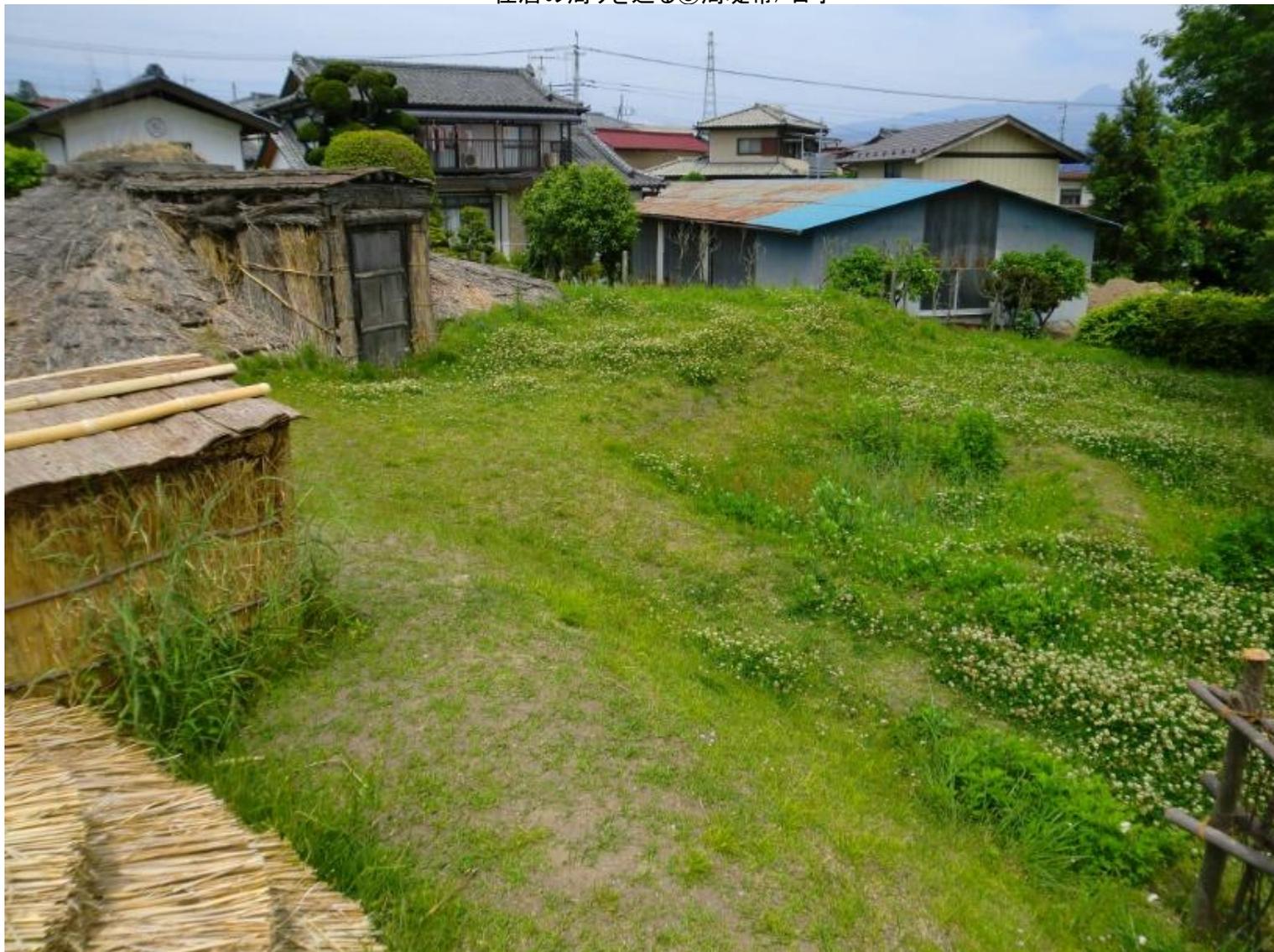




垣根と住居の間に周る窪みは㊟周堤帯



住居の周りを巡る⑨周堤帯/右手



さて、ここには⑩大きな祭祀場展示がある



手前の場所が⑪大きな祭祀場展示



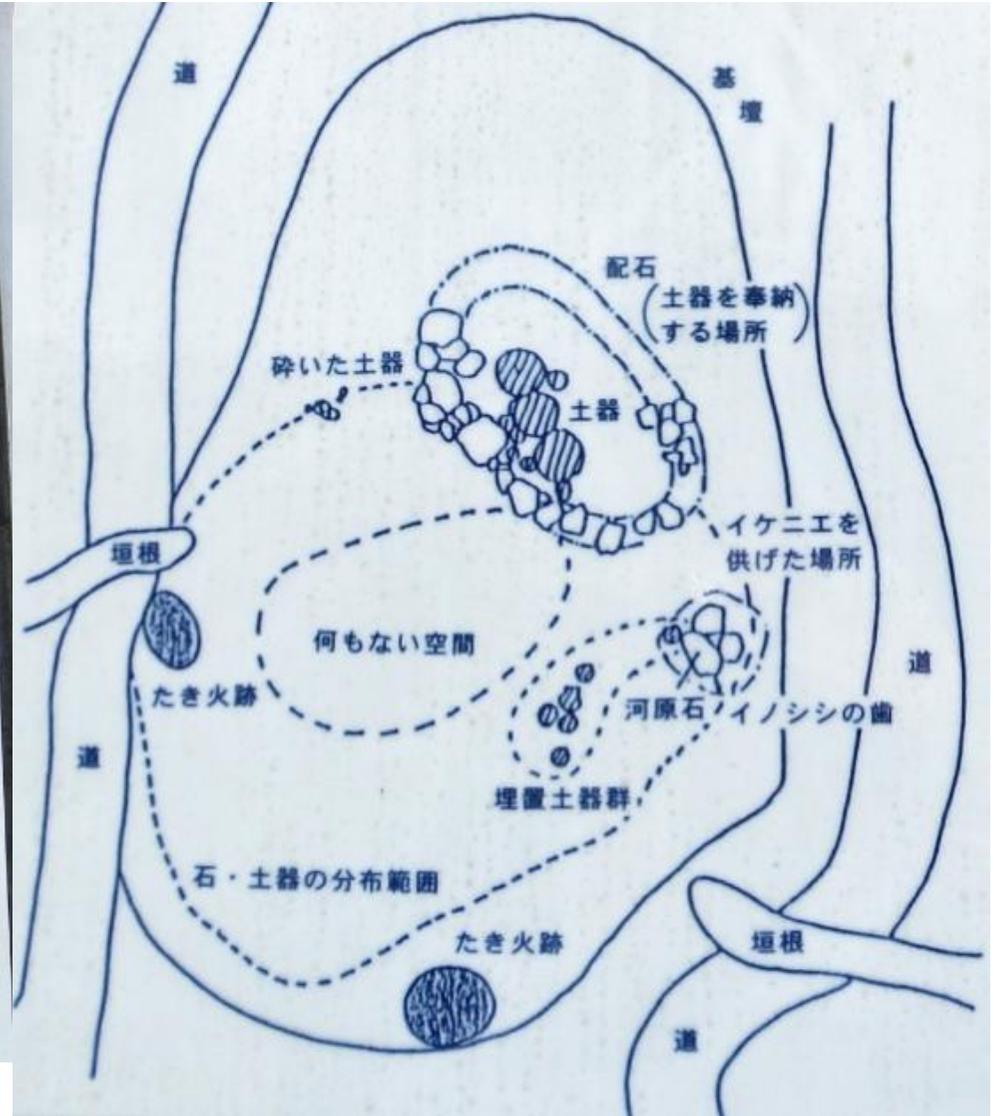
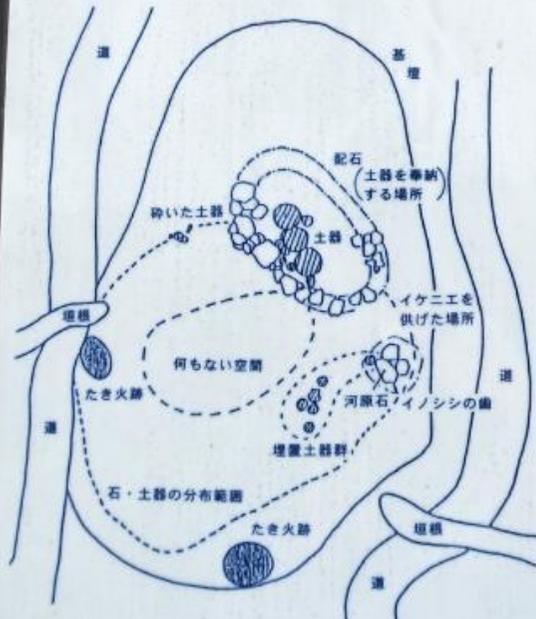


さいし 祭 祀

この大きな祭祀場は
ムラの鎮守のような役割
をしたところである。

イノシシをイケニエに
にして、稲をおそなえし、
豊猟・豊作をおいのりし
た場所である。

この他に屋敷神様や、
木・畑のまわりに小さな
祭祀場と思われるものが
いくつか発見されている。















この左手に㊸古墳がある



反時計回りに廻ってみる









さて、これは⑬火山灰断面剥ぎ取り展示



祭祀

この大きな祭祀場は、ムサの鎮守のような役割をしたところである。イノシシをイケニエにして、稲をおやえし、豊饒・豊作をおいのりした場所である。

この他に屋敷神様や、木・葉のまわりに小さな祭祀場と思われるものがいくつか発見されている。




過程 2号竪穴式住居内堆積火山灰断面剥ぎ取り層

① 1000年くらい前に磐長山が噴火したときの火山灰	② 火山灰を埋め戻した層
③ 1000年くらい前の火山灰層は、このように剥ぎ取られている	④ 火山灰
⑤ 剥ぎ取り層	⑥ 火山灰
⑦ 剥ぎ取り層	⑧ 剥ぎ取り層
⑨ 剥ぎ取り層	⑩ 剥ぎ取り層
⑪ 剥ぎ取り層	⑫ 剥ぎ取り層
⑬ マグマを流す管の跡	⑭ 剥ぎ取り層
⑮ 剥ぎ取り層	⑯ 剥ぎ取り層
⑰ 剥ぎ取り層	⑱ 剥ぎ取り層
⑲ 剥ぎ取り層	⑳ 剥ぎ取り層

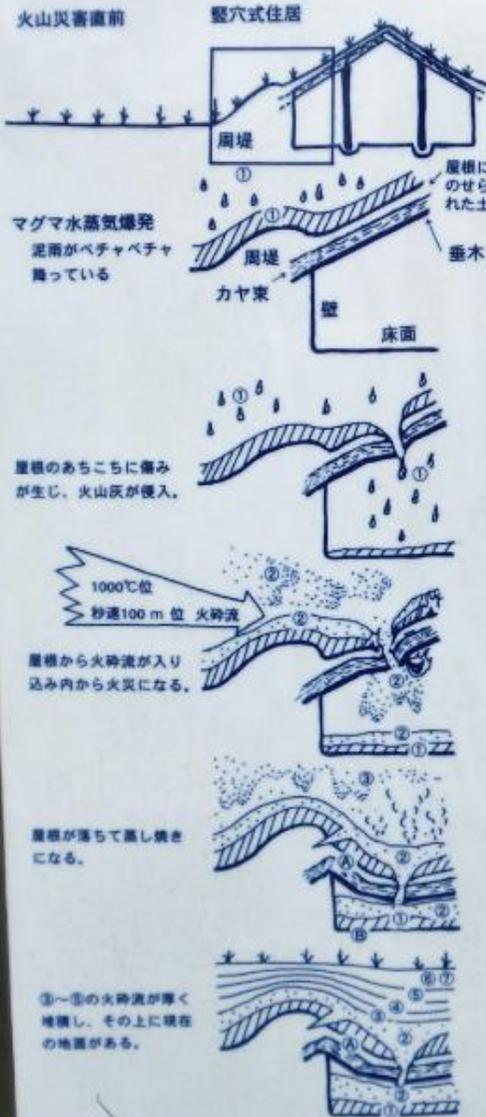
中絶層

2号竪穴式住居の上層部

1号竪穴式住居の跡



火山灰断面剥ぎ取り層



⑦ 1450年くらい前に榛名山が噴火したときの火山灰
⑥ 黒井峯遺跡地表面
⑥は50年くらい火山活動は休止
⑤ 火砕流
④に伴う降灰層
④ 火砕流
③に伴う降灰層
③ 火砕流
②に伴う降灰層
② 火砕流 燃えた木
① マグマ水蒸気爆発の灰 ①～⑤は1500年くらい前に榛名山が噴火したときの火山灰
中筋遺跡
Ⓐ 竪穴式住居の土屋根
①
Ⓑ 竪穴式住居の床

そしてここが⑭説明板



県指定史跡 なか すじ い せき 中筋遺跡

大昔のある秋、榛名山が大噴火した。流れ下った火砕流は山麓のムラを襲い、分厚い火山灰の下に埋めつくしてしまった。

古墳時代中ごろのことである。

それから約 1500年、発掘された遺跡からは、住まい、畑、垣根、まつりなどの跡が生々しく出現した。この遺跡では、火山灰に覆われていたために、普通は残らない多くのことが明らかになっ

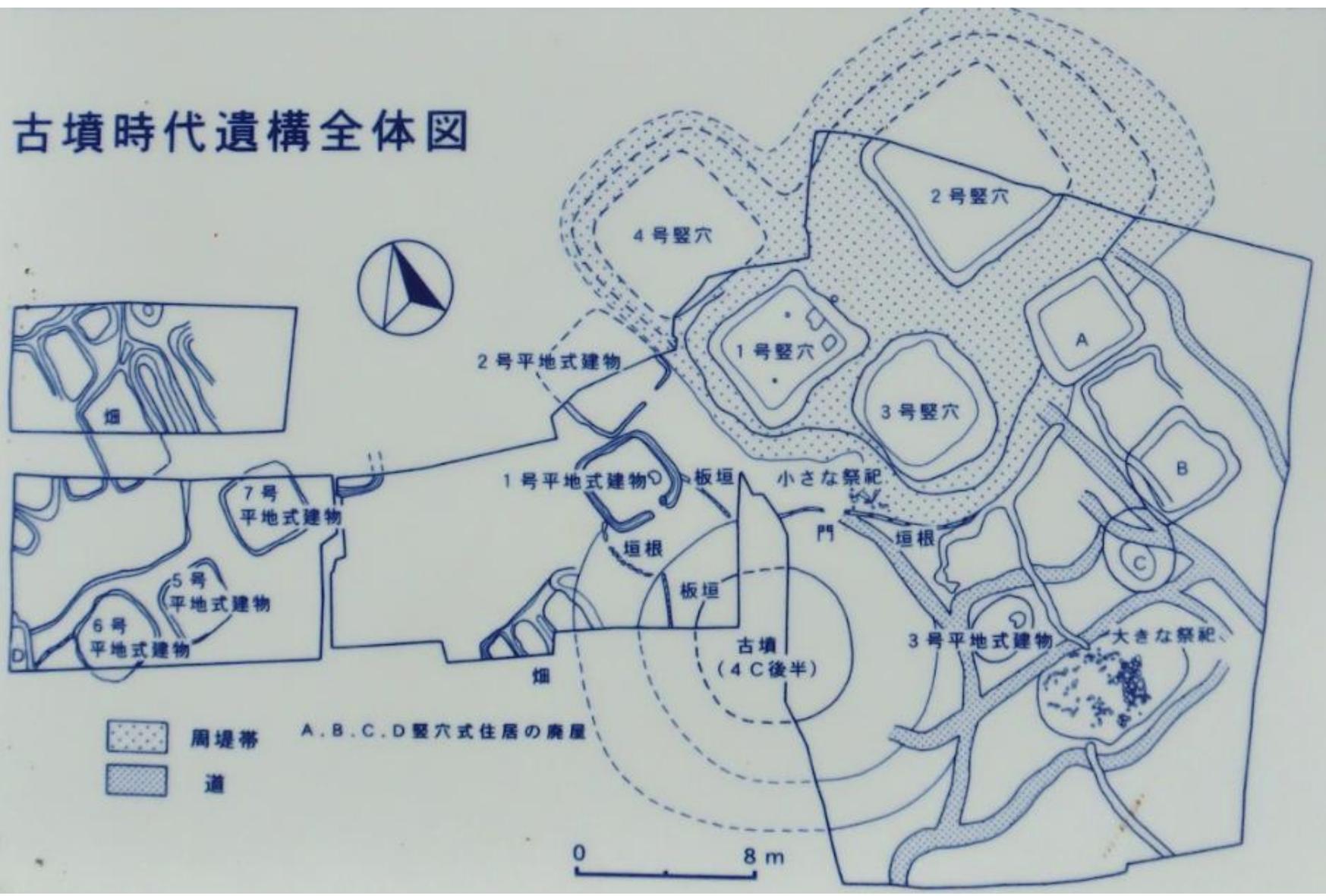


火砕流写真 長崎新聞社提供

火砕流の断面模式図



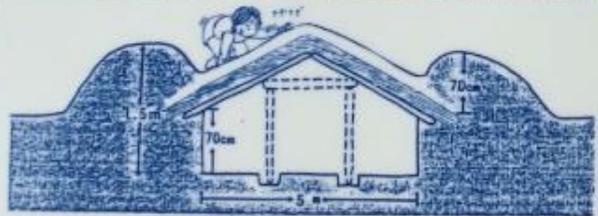
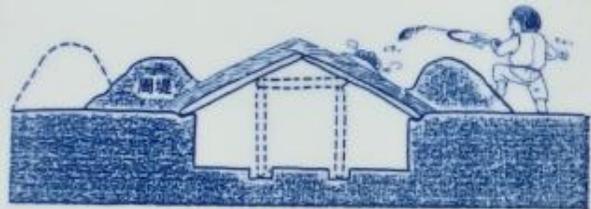
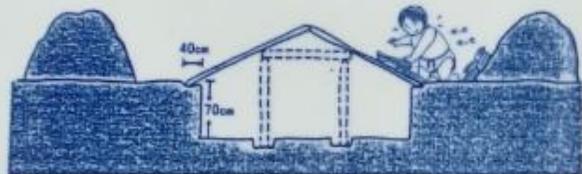
古墳時代遺構全体図



火山灰の下から垣根でかこまれた、現在の1軒の屋敷と思われる建物群が発見された。垣根の中には竪穴式と平地式の住まいなどが同時に存在して、周囲に畑・祭祀場があることなど、黒井峯遺跡とともに屋敷とムラのようなすがわかる、全国で初めての発見だった。

中筋ムラのくらし





竪穴式住居は土屋根だった!!

- ① 竪穴式住居の場所を選ぶ。
竪穴を掘りはじめる。
- ② 竪穴を深さ70cm前後掘り下げる。
- ③ 地表面で屋根を作る。
屋根組み（垂木・横木）の上にカヤ材を交互に葺く。土屋根の下地である。
- ④ 仮置きしていた土を屋根の垂木尻を固定させるために土を土壘状に寄せる。これが周堤帯である。
屋根の下地に土を乗せはじめる。
- ⑤ 土を10cm位の厚さに均等に乗せる。
- ⑥ 中筋型竪穴式住居の完成
土屋根の上にさらに草葺きする。
※土屋根は現在の建築材でいうところの断熱材である。草と草に挟まれた断熱材。

平地式住居
土器が多い。



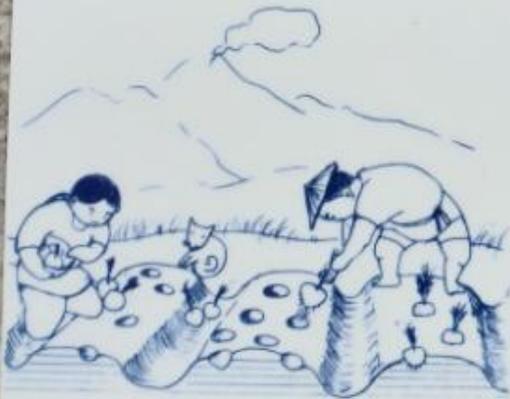
ある秋・中筋ムラ

..... 噴火前のようす

竪穴式住居
土器が少ない。



by.T. Wakasa



畑で収穫する。

夏と冬で住居を住みわけていた！

夏



夏は涼しい平地式住居

冬



冬は暖かい竪穴式住居

このことは、つぎの事から考えられます。

- ① 集火の為のカマドが竪穴式住居、平地式住居両方にある。
- ② 竪穴式住居は雨と夏の湿気に強い構造である。
- ③ 北方民族（アイヌ等）の民俗事例で竪穴は冬の家、平地は夏の家としている。

参考ホームページ

<http://members.icom.home.ne.jp/0811h-hawk/site/site2/prefecture12.htm>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/shibukawa/nakasuij.htm>



▼総合説明板④

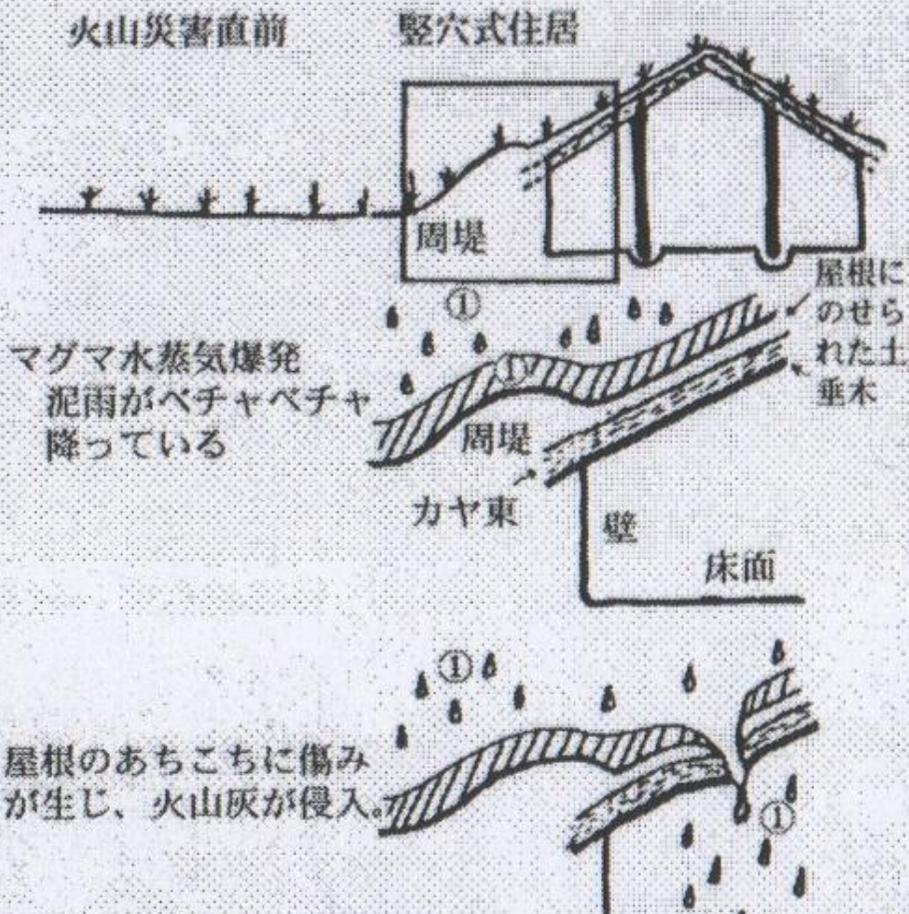
竪穴式住居は土屋根だった!!

- ①竪穴式住居の場所を選ぶ。竪穴を掘りはじめる。
- ②竪穴を深さ70cm 前後掘り下げる。
- ③地表面で屋根を作る。屋根組み（垂木・横木）の上にカヤ材を交互に葺く。土屋根の下地である。
- ④仮置きしていた土を屋根の重木尻を固定させるために土を土塁状に寄せる。これが周堤帯である。屋根の下地に土を乗せはじめる。
- ⑤土を10cm 位の厚さに均等に乗せる。
- ⑥中筋型竪穴式住居の完成
土屋根の上にさらに草葺きする。
※土屋根は現在の建築材でいうところの断熱材である。草と草に挟まれた断熱材。

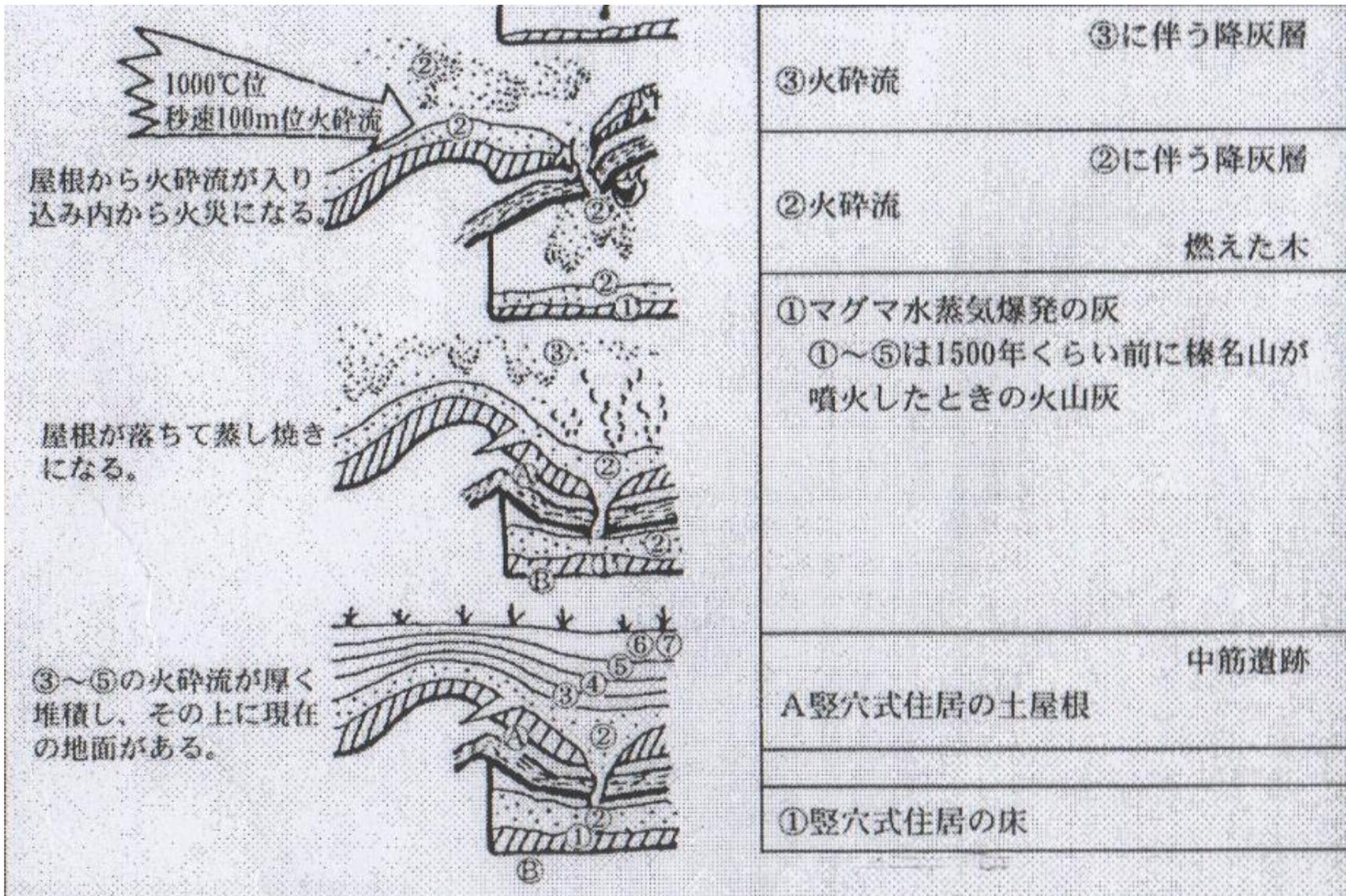
リーフレットより

火山灰による建物崩壊過程

2号竪穴式住居内堆積火山灰断面剥ぎ取り層



⑦1450年くらい前に榛名山が噴火したときの火山灰
⑥黒井峯遺跡地表面
⑥は50年くらい火山活動は休止 ⑤火砕流
④に伴う降灰層
④火砕流



リーフレットより

榛名山の噴火

榛名山二ツ岳は6世紀代に2度の噴火を起こしました。1度目は6世紀初頭、2度目は6世紀中頃のことです。渋川市内では、この噴火による火山灰や火砕流、軽石、あるいは噴火に伴って起きた洪水に埋もれた遺跡が数多く見つかっています。

■榛名山二ツ岳火山灰層(Hr-FA)と遺跡

6世紀初頭に噴火した榛名山二ツ岳の火山灰で、細粒の火山灰、火砕流堆積物、軽石からなる15層のユニットが確認されています。

この噴火による火砕流は、榛名山北東麓から東麓にかけての広い範囲を襲ったことがわかっていて、1991年に噴火した雲仙普賢岳の火砕流より激しい噴火だったと考えられています。

渋川市内ではこの噴火により中筋遺跡の集落が壊滅し、市内各所に広く分布した水田や畠も埋没してしまいました。また、火山灰下からは坂下町古墳群、東町古墳や空沢遺跡の古墳群など多くの古墳が見つかっています。

今回、金井東裏遺跡で見つかった「甲装着人骨」も火砕流の猛威にさらされた被災の一端を垣間見せてくれました。

■榛名山二ツ岳軽石層(Hr-FP)と遺跡

6世紀中頃に噴火した榛名山二ツ岳の軽石で、おもに軽石からなる19層のユニットが確認されています。

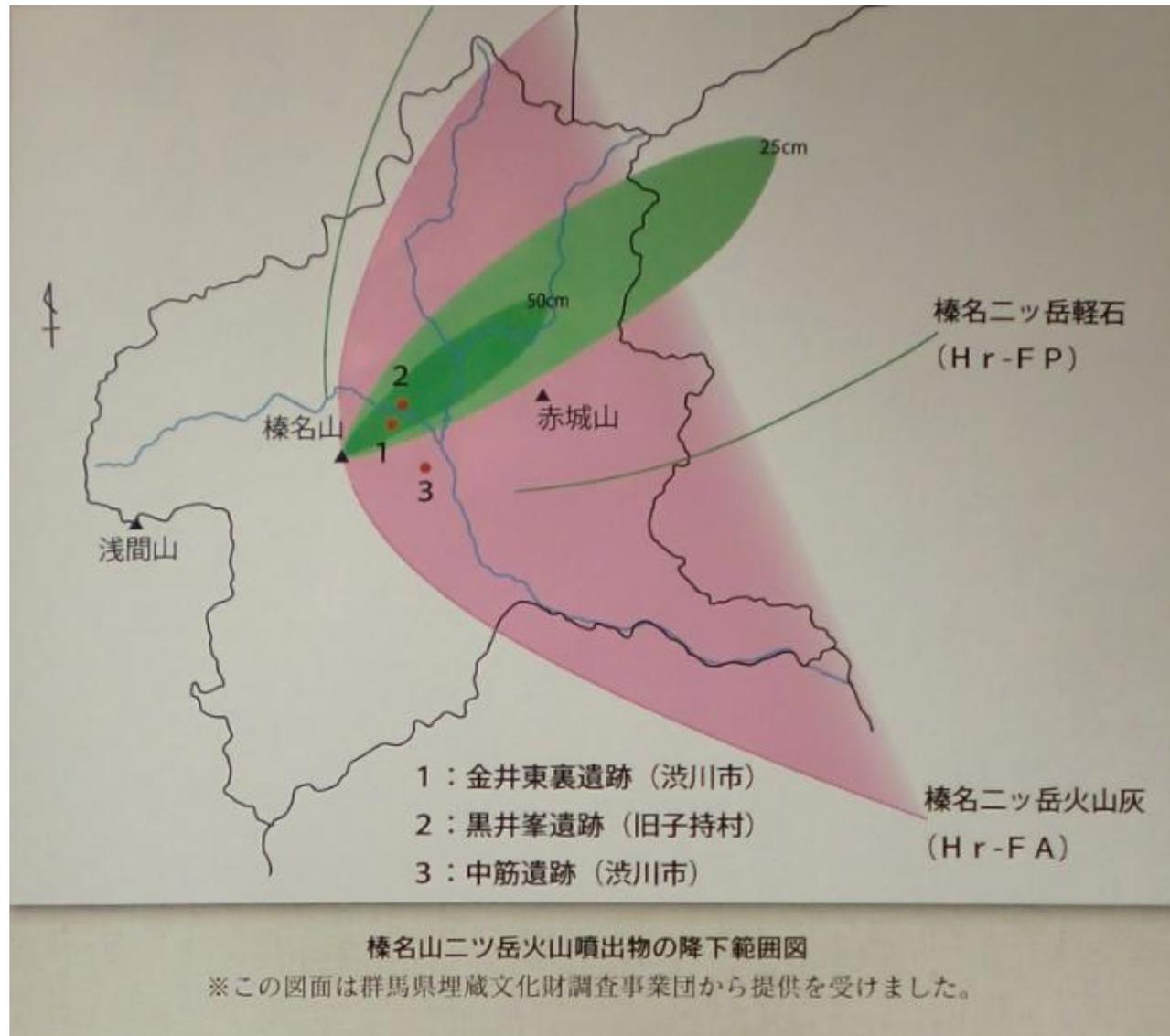
渋川市内ではこの噴火により黒井峯遺跡の集落が壊滅し、火山灰降下の時と同様に市内各所に広く分布した水田や畠も埋没してしまいました。また、中ノ峯古墳や宇津野有瀬遺跡古墳群など、軽石に埋もれた多くの古墳が見つかっています。



榛名山ニツ岳噴火想像図 (Hr - FA)

噴火によって火山灰を降下させるとともに、火砕流も発生しました。

渋川市北橋総合支所(渋川市) 展示室にて撮影



澁川市北橋総合支所(澁川市) 展示室にて撮影



渋川市北橋総合支所(渋川市) 展示室にて撮影



渋川市北橋総合支所(渋川市) 展示室にて撮影